



No.71 2020.8.21

明石市コミュニティ・スクールだより
人をつなぎ 未来をつなぐ 明石のコミュニティ・スクール

コミコミスクスク

KOMIKOMISUKUSUKU

明石市教育委員会事務局学校教育課

高丘中校区コミュニティ・スクール第2回学校運営協議会が開催されました

7月28日に高丘中学校区コミュニティ・スクール第2回学校運営協議会が高丘中学校で開催されました。昨年度よりこれまでの小中一貫の取組をベースに高丘中学校、高丘東小学校、高丘西小学校の3校で高丘中学校区コミュニティ・スクールとしてスタートしました。その高丘中校区では令和3年度より、小中一貫教育モデル校としての実践を活かした「高丘校区併設型小中一貫教育校」としてステップアップする準備が進められています。

学校運営協議会では委員の方より、「自分たちのまち高丘の学校として、学力面だけでなく、ここがちがうんだという特色のある学校を」という熱い願いが出されました。保護者の皆さんへは7月に次のように「高丘校区併設型小中一貫教育校」開設についてのお知らせ」として各校より保護者にお知らせが配布されています。

2020年(令和2年)7月14日
高丘中学校区保護者 様
明石市教育委員会

「高丘校区併設型小中一貫教育校」開設についてのお知らせ

平素より本市の教育活動にご理解ご協力いただきありがとうございます。
本市はこれまで、小中一貫教育を計画的に進めるため、市内の中学校区別に校区UNIT(ユニット)を設置し、校区ごとの教育課題に沿った取組を進めてまいりました。その中でも、高丘中学校区は平成28年度・29年度、市の指定研究校として、9年間を通じた小中一貫教育の在り方について研究を実施し、それ以降も市の小中一貫教育モデル校として実践を積み重ねてまいりました。
この度、これまでの取組を活かし、令和3年4月1日に、現在の学校施設そのままに、「高丘校区併設型小中一貫教育校」を開設する運びとなりました。
小中一貫教育校とは、小中学校9年間を一貫して系統的・一体的に教育を進める学校で、1年生(小学1年生)～9年生(中学3年生)までが一貫した教育課程の下、学校生活を送ります。新しい環境での学習や生活に不応を起す、いわゆる「中1ギャップ」の緩和・解消や、児童生徒の成長の過程において適切・効果的な対応ができることが期待されています。
これまでの取組を活かし、明石市の小中一貫教育をリードする存在となるよう進めてまいりますので、保護者の皆さまにはこれまで通りのご理解ご協力をお願いいたします。

○「高丘校区併設型小中一貫教育校」では
高丘東小学校・高丘西小学校・高丘中学校とも、これまで通り存続したまま、一つの「学園」として小中一貫した教育を行います。(制度上、両小学校は中学校併設型小学校に、中学校は小学校併設型中学校となります。)
これまでと同じように、高丘中学校区UNITとして、高丘東幼稚園・高丘西幼稚園・明石養護学校・高丘保育所とともに連携した教育を行います。これらの学校園所は同一「学園」には入りません。



○小中一貫教育校の効果として期待されること

- ・中1の壁、いわゆる「中1ギャップ」の緩和・解消が期待できます
- ・系統性・連続性を意識した教育で教育効果の高まりが期待できます。
- ・学年や小・中学校の教育課程での指導順序を入れ替えたり、学習指導要領にはない独自の科目を明石市の判断で設定したりすることが可能になり、より効果的で特色のある教育活動が展開できます。
- ・異学年交流(小1～中3)の幅が広がり、精神的な発達を促され、社会性の涵養が図れます。
- ・児童生徒を9年間継続して指導するので、一人一人の個に応じた効果的な指導を行うことができ、学力向上につながります。

○高丘校区併設型小中一貫教育校の開設に伴い、変わること・変わらないこと

| 項目 | 変わらないこと | 変わること | その他 |
|-----------------|--------------------------------|-------------------------------------|-----------------------------------|
| 校名、校章、校歌、学校教育目標 | 高丘東小学校 高丘西小学校 高丘中学校 | 学園名を冠する小中一貫した学園教育目標の設定 | 学園歌の新設 学園章新設は今後検討 |
| 職員組織 | 各学校に校長、教頭、教諭等、養護教諭、事務職員、用務員を置く | 一部または全部の教員に兼務命令が発令され、学校をまたいで授業実施が可能 | 統括校長(学園長)を高丘東・高丘西小、もしくは高丘中学校長から選任 |

○今後の予定

- 令和3年度開設を目指します。
- 令和2年度中に詳細な計画案を策定
- 保護者、地域への説明(随時)
- リーフレット(学園要覧)の作成
- 11月ごろ、学校説明会(入学説明会)

(問い合わせ先)
明石市教育委員会事務局
学校教育課:TEL.078-918-5055
FAX 078-918-5111

「高丘校区併設型小中一貫教育校」開設についてのお知らせ

新たな学びと育ちのシステムであるコミュニティ・スクールとして学校・保護者・地域のみなさん、そして子どもたちも一緒に熟議が重ねられながら、子どもだけでなく大人も育つ学びの場としての学校デザインがすすめられていくのではと期待しています。

8月18日15時30分から第2回 Meet de 対話「コロナ禍を経験して考えたこと 思ったこと」が開催されました。Meet に不慣れな主催者でミスが連発で参加の先生方にはご迷惑をおかけしましたが、こうしたこともノウハウになっていくんだなと前向きにとらえさせていただきます。今回が初参加であった先生、前回から引き続き参加いただいた先生、学校内で誘われて参加していただいた先生方、懇談会の合間に覗きに来てくださった先生方、ありがとうございました。



参加していただいた先生方からは

- 変化しないといけない。 ○頭のフットワークをよくしないといけない。
- 「社会とつながっていない、社会と切り離された」といったことを感じた。
- 学校間の情報交換がない中で、それぞれの学校独自の価値観が生まれ、個々の学校のガラパゴス化がおきているのでは。
- オンラインが普通になっている中で、学校にとっては特別なこと。
- 大学生はオンラインで学んでいる。そうした学生が来年には学校に入ってくる。
- 校内で国語を研究しているが、これまでのスタイルを続けるのは難しい。
- 主体的、対話的といった言葉をよく使うが、もう一度主体を育てるには、対話的な学びをすすめるにはといった話が出ていないのでは。

といった話が出る中あっという間の1時間でした。互いにどんなことを考えているのかを知ることができただけでなく、自分が今からしないといけないことを考える場になったといった感想をもらい、ポスト・コロナの学校を考えることの必要性を改めて感じました。

そんなことを考えていると「教職研修 8月号」が目にとまりました。



【特集1】ポスト・コロナの「学校」を描く

—激動の時代。無理に元通りにするよりも、前進を!

“元通りの教育活動に戻そうとするのではなく、発想を転換して、これまで無理に形式上こなしていた諸教育活動、ひいては学校教育のあり方を全体的に見直す契機とすべきではないでしょうか。”と特集1で問題提起されています。

【特集2】「オンライン授業」が、学校全体の授業を変える

“中・長期的な視野で、これまでの「普通教室」における「一斉授業」を踏襲するのではなく、オンラインを生かした通常授業をどう新たにデザインしていけばよいか。”と特集2

で問題提起されています。確実に社会全体がポスト・コロナに向け動き始めています。

是非まず校内でポスト・コロナの学校を考える場をつくっていただけたらと思っています。そして、校内から保護者・地域と対話を広げ、各小学校区、そして各中学校区で新たな学びと育ちのシステムができていったらと願っています。「SDGs 持続可能な社会」を創るのは人であり、人を育てる仕組みをつくっていく作業が教育に携わる我々に与えられたミッションだと考えます。

(文責：北本)